

名古屋市立矢田小学校

Nagoya City YADA Elementary School

実践テーマ

自分で考え、人と学び合い、わくわくしながら進めよう！

—PBLとタブレットPC活用を核とした、学びの個別化・協同化・プロジェクト化—

※ PBL(Project Based Learning)は、子ども自身が課題を設定し、課題解決のための計画を立て、探究し、成果を発表する探究的な学びです。

1

自分の問い合わせ探究する

児童がわくわくする問い合わせ自ら立て、自分なりの見通しをもって自分でやりとげる探究的な学び(PBL: Project Based Learning)に取り組んでいます。児童は、自分の問い合わせからプロジェクトのゴールを設定し、わくわくする気持ちを原動力に、試行錯誤しながらゴールに向けて学習を進めます。



実体験や本物との出会い

児童がわくわくする自分事の問い合わせ立てられるように、実体験や本物との出会いを大切にしています。そのために、特に「ふれる」活動では、積極的に外部の方々と連携しています。

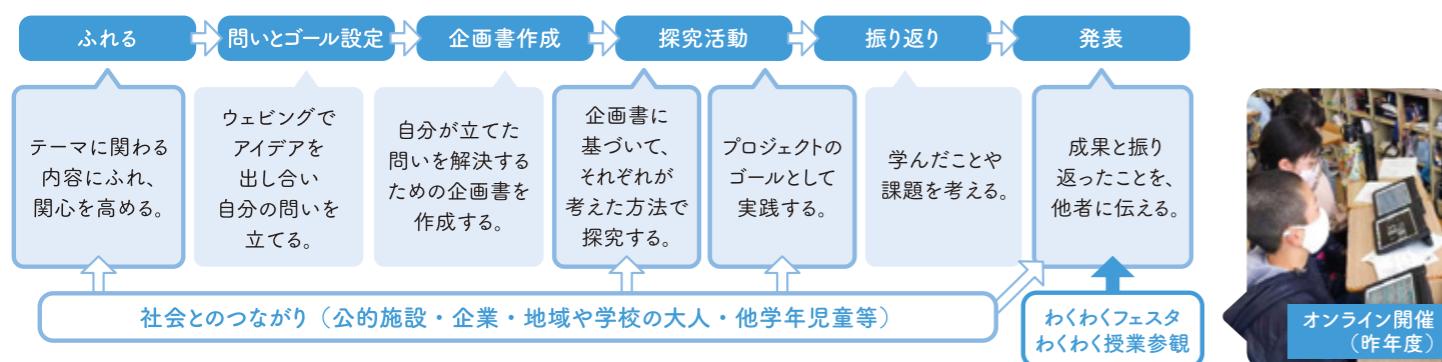


有松・鳴海絞りの体験



車椅子の体験

プロジェクト型学習(PBL)の流れ



プロジェクト連携事業者



2 ICTを文房具として

一人1台タブレットを文房具の一つ(道具)と位置づけ、ICTを効果的に活用した学習を進めています。児童自身が、ICTのメリット・デメリットを体験的に学びながら、場面や用途に合わせて選択できることをめざしています。

複線型の授業

児童が自己選択して、自分に合った方法やペースで学ぶ複線型の授業も行っています(例えば、教員からミニ講義を受ける、自分で教科書を使って学ぶ、自分でタブレットを使って学ぶ)。

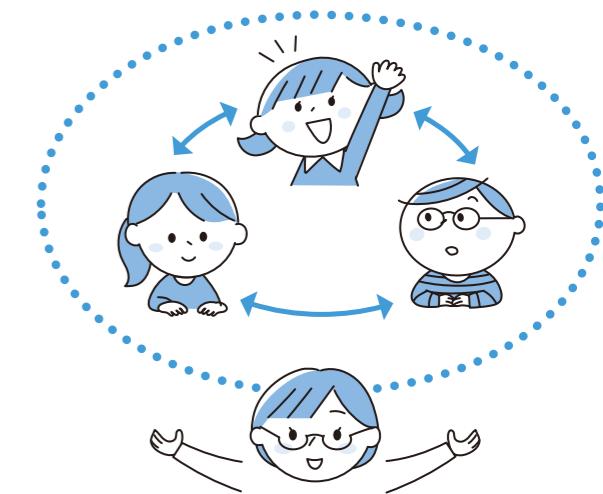


3 子どもが主役

学びの主役は子どもです。教員が手取り足取り児童に教え、失敗しないように導くのではなく、児童の自己選択・自己決定を尊重し、時には失敗も経験しながら自分の力で学びとていく過程を重視しています。

ファシリテーター

ファシリテーションとは、ものごとを活性化したり整理したり、活動のプロセスをサポートすることです。子ども主体の学びでは、教員はファシリテーターとしてかかわります。



校長メッセージ



松山 清美
Kiyomi Matsuyama

本校では、「自分で考え、人と学び合い、わくわくしながら進めよう!」という目標を掲げ、これをめざした学びを「わくわく学習」と呼んでいます。「わくわく学習」では、「探究的な学び」と「タブレット端末の効果的な活用」を重点とし、子どもがわくわくする気持ちを原動力として、主体的に取り組むことを大切にしています。

授業を進めるに当たっては、民間事業者(NPO法人日本PBL研究所)のサポートを受けながら、従来の教師が教える授業から、子ども主体の学びへの転換を図っています。子ども主体の学びでは、子どもが自分なりの見通しをもち、方法やペースを自己選択・自己決定しながら学習を進めます。教師の役割は、伴走者として、子どもをサポートすることです。また、学校が社会とシームレスな学びの場となるよう、企業や専門家とのかかわりを積極的にもつようになっています。

このようにして、未来をたくましく生き抜く力を育てたいと考えています。